
いにしえの恋人

Bell

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

いにしえの恋人

【NZコード】

N6382H

【作者名】

Bell

【あらすじ】

ショートショート。現世にいながら夢のなかに生きている、彼の回想を、そのままに綴りました。

古びた館のテラスに独り、私は佇んでいた。お気に入りの書籍も、何もかも、部屋のなかに忘れてきてしまった。

空を見上げると、あの頃の記憶が少しだけ甦つてくれる。
大切な、想い出のひと欠片。

だいぶ昔のことだから、全てを鮮明に思い出すことはできない。

けれど、白い雲の切れ間に、かけがえのない大切な人が、ほんの
微かに見え隠れする。

あの頃、自分の命よりも尊く、何よりも私の救いだつた貴女の姿
を、何世紀も経つた今になつて感じるのはどうしてだらう。

ショリー、ショリー。

そんな愛称で呼んでいた気がする。

私はどうして、あの時、あの場所で、貴女と最期をともにするこ
とが出来なかつたのだろう。
いや、出来なかつた？

肝心な記憶だけが、ああ、思い出せずに、私は日々を送つている
よ。ショリー。

私は貴女に、幸せな思いをさせてあげられていたのだろうか。
ねえ、ショリー。

愛称ばかりで、貴女の本当の名前をまったく憶えていない自分に、
少しばかり苛立つてしまつよ。

貴女はいま、どうしているのかな。

私が吸血鬼のように永遠を生きていくようで、貴女との時間は古のまま、そんな気がするんだ。

だから、この世で恋人をつくることが、憚おそれられるのかも知れないね。

私はまだ、貴女のことが忘れられないのでしょうか。
そんなことを思いながら、すべてを感じられないのが狂おしい。
いつそのこと終止符を、なんて考えたけれど、まだ私はこの世でやり遂げたいことがあるんだ。

だから、今は貴女の元へはいけないよ。シーリー。

いくら時を経ても、私にとつて貴女は永遠の恋人なのでしょう。

……

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6382h/>

いにしえの恋人

2010年10月11日23時30分発行